



学校教育目標

豊かな心と学ぶ意欲を持ち、
夢に向かってたくましく生きる生徒の育成

< 具体目標 >

『西中ブランド（礼儀・時間・身だしなみ）』

の勇往邁進

知：進んで学ぶ生徒
体：ねばり強い生徒

徳：思いやれる生徒
夢：目標に向かう生徒

学校課題

- 1 西中ブランド（礼儀・時間・身だしなみ）の推進
- 2 少人数習熟度学習の維持発展
- 3 知識・技能の活用能力を高める授業改善
- 4 西中学習スタンダードの浸透
- 5 夢や希望を育むキャリア教育の推進

- 日本国憲法 ○教育基本法
- 学校教育法 ○学習指導要領
- 群馬県学校教育の指針
- 富岡市教育行政方針

- 地域や家庭、生徒の実態
- 保護者や教職員、地域の願い

7つの学校経営方針

- 1 主体的・創造的な経営参画（全職員が、自らの専門性や特性を発揮し主体的・創造的に経営に参画する活力溢れる学校づくり）
- 2 共通理解と共通実践（全職員の共通理解と共通実践のもと推進する組織的・計画的・継続的な教育活動）
- 3 愛情と願いの大きさで、いじめ0・体罰0（生徒は信じる者の声しか聞かない！「愛して、信じて、任せて、誉めて、叱って」の繰り返し）
- 4 信頼関係・支援体制の強化（望ましい情報発信と礼節と誠意のある交流により、学校と家庭・地域社会との信頼関係を強化）
- 5 心身の健康と励む価値（部活動や体育の行事を通して、心身を鍛え、目標に向かって根気強く努力し続けることの尊さを会得）
- 6 全校生徒の担任（全職員が全校生徒の担任としての自覚を持ち、愛情のあるきめ細かな支援・指導を実施）
- 7 校内研修の充実（思考を広げ、学びを深め合う授業づくりとICT活用に関する教育実践活動の推進）

24の努力点

〔知：進んで学ぶ生徒〕

- ①（主体的な学び）学習意欲を喚起させる導入、学習を振り返り、身につけた資質・能力を自覚したり、共有したりする終末
- ②（対話的な学び）生徒の協働的な学びを増やし、話し合いや発表など様々な表現を通じて、自己の考えを広げ深める学びを
- ③（深い学び）思考・判断・表現を伴う多面的・多角的な学びを導入し、学んだ知識や技能が生きて働かせる
- ④ 個や集団に応じた支援・指導を行い、課題解決が図れ成就感が味わえる授業の推進
- ⑤ 学ぶ意義や学習の仕方・進め方を着実に身に付けさせる
- ⑥ 「チャレンジ〇〇時間」を中核に、自主学習の習慣化

〔徳：思いやれる生徒〕

- ① 学校行事、特別活動、ボランティア活動などで「成すことによって学べる工夫」の実施
- ② 共通理解を図りながら22の内容項目を網羅した道徳の授業
- ③ 道徳の時間を要し、全教育活動を通して道徳的実践力の育成
- ④ 教職員は常に人権感覚を磨き高め人権を尊重した教育を遂行
- ⑤ 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度や資質の育成
- ⑥ 「個が尊重され、明るく民主的な学級」、「互いに高め合う人間関係」づくりと「自己有用感」の実感
- ⑦ 問題行動の早期発見と早期対応、早期解決を、そして解決への道筋は生徒や家庭の貴重な学びの場と認識
- ⑧ 家庭読書の日と朝読書を中核として読書活動の充実

〔体：ねばり強い生徒〕

- ① 部活動と体育は、互いに助け合い・高め合う人間関係を築く場
挨拶・礼儀・友情・練習目的・成就感・連帯意識に配慮
- ② 自主的・主体的な保健教育活動の推進
- ③ 家庭や地域との連携を強め、健康な生活習慣を確立
- ④ 弁当の日を中核とした生徒主体の食育の推進

〔夢：目標に向かう生徒〕

- ① 西中校区小中キャリア教育グランドデザインに基づいたキャリア教育の推進
- ② 進路、学習、生活、部活など、一人一人の生徒と関わる目標づくり（何を聴き取り、何を語り、何を掴ませ、如何に激励し、諭し、支え、伸ばして行くのか）
- ③ 職場体験活動、生活ノートなど将来の夢や希望を支える支援・指導の充実

〔特色ある学校〕

- ① 「西中ブランド」の中核とした西毛地域に誇れる学校づくり
- ② グランドデザイン、学習・生活スタンダードの見直しと改訂による小中連携
- ③ 数学科と国語科の習熟度別学習、少人数指導、TT指導の実施

教科指導

道徳教育

総合的な学習の時間

特別活動

人権教育

学校図書館教育

部活動

キャリア教育

特別支援教育

ICT活用

学年・学級経営

生徒指導

環境教育

食育

配慮すべき重点事項

- ① 学校通信・学級通信・進路指導通信・HP・メールなど、情報を積極的かつ計画的に家庭や地域に発信
- ② 生徒への一声作戦を進め、生徒との人間関係づくりと日々の教育相談
- ③ 点検・整備、不審者対策、交通安全など、安全安心の学校づくり
- ④ ボランティア活動など、積極的に地域や地域の人々に貢献する生徒の育成
- ⑤ 地域人材から学び、地域人材と触れ合い、地域人材と考える教育課程を組み入れる。